

■ 基本理念と基本方針

【基本理念を構成する要素】

- ・ 町民の足・町外からのアクセスとして欠かすことのできない鉄道
- ・ 町内の移動支援として維持してきたハイヤーやデマンドバス運行
- ・ 既存資源の活用による移動手段の確保
- ・ 低炭素でICT技術を活用した将来的にも活躍できる持続可能な地域公共交通の維持・確保

安平町の輸送手段については、左記に掲げた守り育てる要素があり、これらの効果的な運動を図るための基本理念を以下のように設定しました。なお、基本理念は将来に向けた姿勢であり、計画期間満了後も含めて基本的に変わらないものと考えます。

● 基本理念

歴史ある鉄道の維持を基本として、既存輸送資源を存分に活用して、将来の魅力ある地域社会を見据えた便利で利用される公共交通を目指す

▼ 基本方針

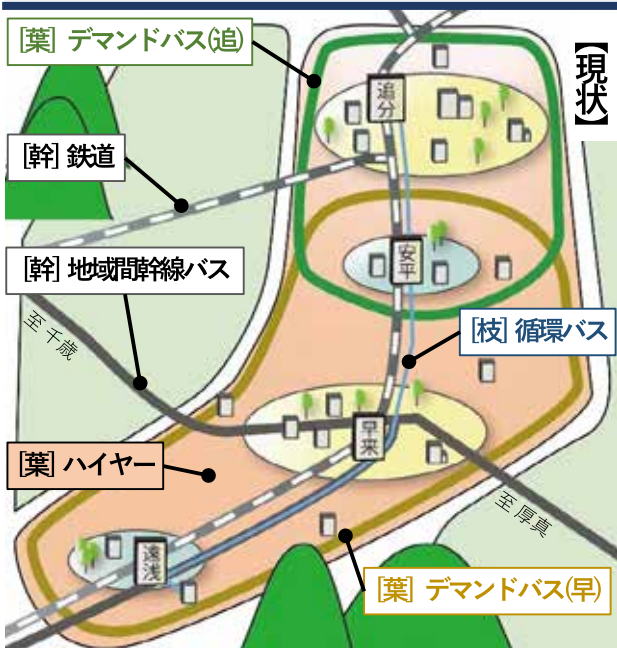
移動目的に合わせた適切な公共交通の維持・改善とICT技術等の多様な連携による利便性が高く、持続可能な地域公共交通の実現

【基本方針の考え方】

- ・ これからの5年間はデジタル技術の更なる発展により、^{マース}Ma a S（公共交通やそれ以外のサービスが一括して利用できる概念）やバスロケーションシステム（走行車両の位置情報を知ることができる機能）などが定着していくと考えられます。
- ・ 環境負荷低減や観光振興が国を挙げて推進され、持続可能な発展が必須になることが想定されます。

総合計画等の上位計画や関連計画のまちづくり計画との連携

■ 現在の公共交通体系と目指す公共交通像



【現状】
【将来】

第1期計画が目指し実現してきた将来像については、第2期計画においても基本的に変更はありません。

しかしながら、将来的には、循環バス・デマンドバス・ハイヤーは一体的に捉え※、これまでの機能分担を超えた「人の生活を中心に置いた最適化」を選択肢の一つとして検討していきます。（例：朝から昼過ぎまでのコアタイムはハイヤーと循環バスで、量が落ちる休日・夜間は予約制デマンドバスで等）また、「人の移動」のみならず「モノやサービスの移動」を含めて検討していきます。

交通モード	基本目標
鉄道（室蘭線、石勝線） あつまバス（苫小牧線、千歳線等）	幹：幹線の利用促進と維持改善
循環バス ↳ 将来的には一体的に	※ 枝：きめ細かい支線の機能強化
デマンドバス、ハイヤー等	
共通：横断的な利用促進策の強化による公共交通の活性化	葉：自由度の高い町内交通の高度化

【現状】

- ・ 鉄道と地域間幹線バスが都市間を結ぶが維持困難
- ・ 循環バスが鉄道の合間を縫って4地区を結んでいる
- ・ デマンドバスが2つの乗車エリアで分かれている
- ・ ハイヤーが町内全域をカバーするが運転手が不足

交通体系の再編
役割分担の明確化

輸送資源の総動員
責任と参画意識
へと深化・進化



優先すべき施策（上位2つ）

- 時間や曜日など需要に合わせて便数調整の検討 48.1%
 - 運賃負担を軽減する取組の検討 38.7%
- （アンケート結果より n=486）

通院・買い物先に到着する時間

